

杉戸町今昔往来伝

古きをたずねて
杉戸を再発見

第86回

青い目の人形と杉戸④

アメリカから日本の子どもたちへと贈られた「青い目の人形」に対し、日本の各道府県などからは五十八体の「市松人形」が、答礼人形としてアメリカの子どもたちへと贈られました。この答礼人形は、全米を巡回、各地でその歓迎会が開かれたといわれます。こうしたギューリックや渋沢たちの地道な民間平和外交の功績により、日米関係は好転したようです。

しかし、その状況も永くは続きませんでした。昭和四年（一九二九）には世界恐慌が起こり、同六年には満州事変が勃発するなど、世界情勢も大きく変化、再び日米関係は悪化していきます。ほぼ時を同じくして渋沢栄一も、昭和六年十一月十一日、奇しくも国際平和記念日の日にその生涯を閉じています。

昭和十二年（一九三七）から日中戦争が始まると、日米関係はさらに悪化、終には昭和十六年、日本のハワイ真珠湾攻撃により、アメリカとも直接戦闘状態に入ったのです。皮肉にも、ギューリックは、ハワイでその余生を過ごしていた時であり、当初真珠湾攻撃の一報を米軍によるデマであると信じていたといえます。

こうした中で、「青い目の人形」は、敵性人形として、その多くが廃棄や焼却の憂き目を見たのです。残念ながら杉戸町域に存在

お知らせ

（社会教育課 町史・文化財担当編）

していた筈の「青い目の人形」も、同様の運命をたどったと考えられます。埼玉県内の小学校に贈られた百七十八体の「青い目の人形」のうち、現在、人形そのものが確認できるのは十二体。人形の処分を忍びなく思った人々が、学校の天井裏や物置、押し入れ、奉安殿などに匿ったのでした。

戦後、永い間人知れず眠っていた「青い目の人形」。それは、数少ないだけでなく、偶然発見されたに過ぎないのかもしれない。しかし、その存在は、ギューリックや渋沢と同様、日米友好や世界平和を願う人々が、戦時体制下においても少なからずいたことを物語っているのです。（おわり）

※奉安殿：戦前の日本において、天皇と皇后の写真（御真影）と教育勅語を納めていた建物。戦前の小学校等に建てられていた。

8月17日（火）～31日（火）まで令和3年度杉戸町平和企画展「渋沢栄一と青い目の人形」平和の人形交流プロジェクト」が東武日光線杉戸高野台駅内コンコースにて開催されます。県内に現存する全12体の青い目の人形や復元された答礼人形「秩父嶺玉子」の写真をぜひご覧ください。（詳細は、広報すぎと8月号に掲載予定）

問 住民協働課 国際化・交流担当 内線287

Enjoy Sports \★/ スポーツ協会

Vol.2

杉戸町サッカー協会

サッカー協会の沿革

1987年（昭和62年）、サッカーを通して子どもから大人までを一本化した組織を作り、杉戸町の発展に寄与していこうということで誕生しました

令和3年度 登録団体数及び加盟人数

少年（第4種）5団体、中学校（第3種）2団体、高等学校（第2種）2団体、社会人（第1種）7団体 計16団体 総勢685名

実績等

昌平高校が今では全国大会出場の常連校（ベスト8）

昨年度、社会人の杉戸クラブ（県2部リーグ所属）が全国クラブチームサッカー選手権関東大会へ埼玉県代表として出場し、準優勝

生涯スポーツとして

「それぞれの人のニーズに合わせ、生涯にわたってサッカーを楽しんでもらおう」

杉戸町サッカー協会はこのことを目標に幅広い年代層の活動を支援していきたいと考えています。今ある自分の力で、ボールを追って走ってみませんか

▶杉戸町サッカー協会についての問合せ 副会長 比田井 裕 ☎（34）2395



ユニバーサルデザイン(UDフォント)を使用し、読みやすい書体を採用しました。

杉戸町
ホームページ



メール配信
すぎめー



広報スマホ版
マチイロ

